

チリトロール 2000 L 測定結果集計について

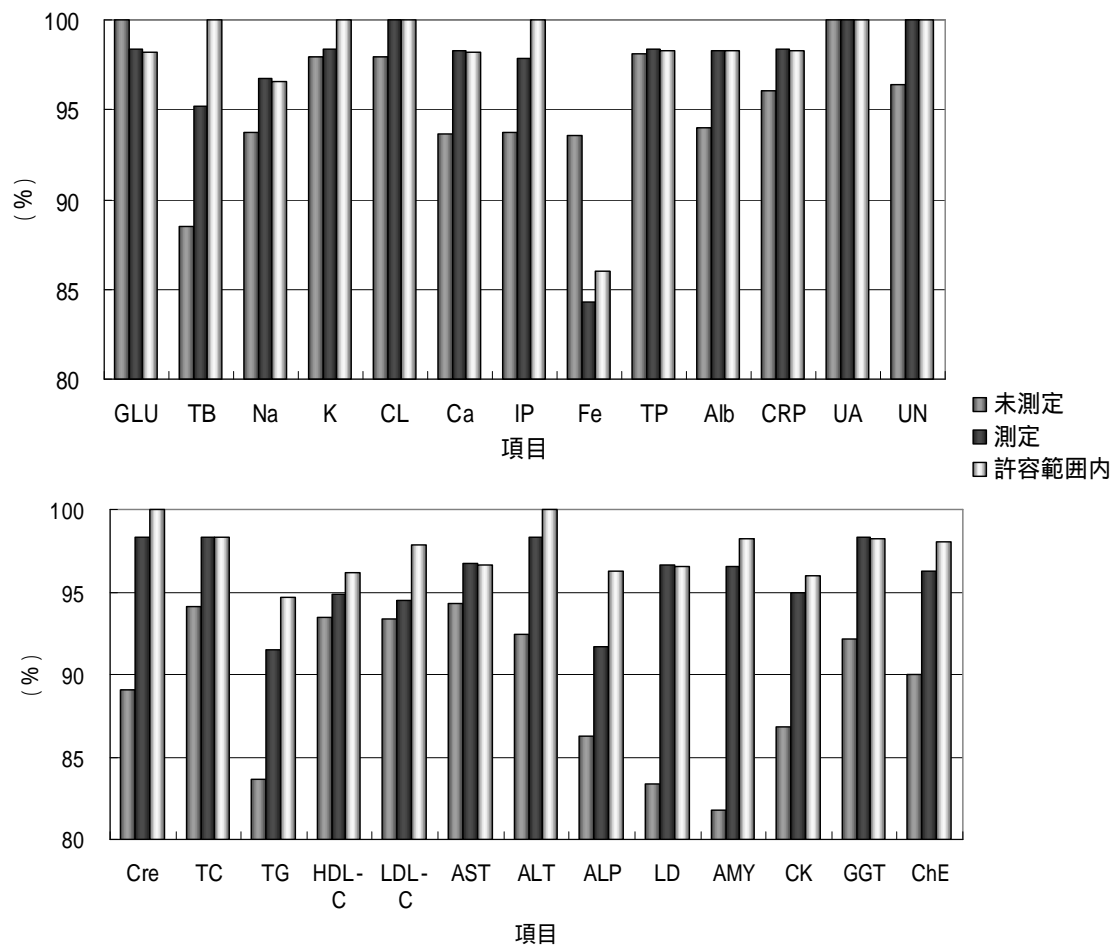
本サーベイでは千葉県検査値統一推進事業の一環として、参加施設に『Chiritrol 2000L イエローラベル』（以下、チリトロール）の測定をお願いした。測定状況は全参加施設の約 55%となっている。測定値の報告があった施設をチリトロール測定施設とし集計を行った。

サーベイ参加施設を項目ごとにチリトロール未測定施設、チリトロール測定施設、チリトロール測定値が認証許容範囲内であった施設に分類し、サーベイ試料に対する A 評価割合を算出した。各項目における A 評価割合を図 10 に示す。チリトロール測定施設群では 26 項目中 21 項目が、チリトロール未測定施設群に比べ A 評価割合が高い結果となった。さらに、チリトロール測定値が認証許容範囲内であった施設群では、22 項目の A 評価割合がチリトロール未測定施設群より高い結果であった。

今回、FE の A 評価割合はチリトロール未測定施設群よりチリトロール測定施設群の方が 10%低く、サーベイ参加全施設でみてもサーベイ試料 1 の A 評価割合は 86.2%と昨年度よりも低かった。チリトロール測定施設の平均値と認証値では差がなかったのに対し、サーベイ試料 1 の FE は全体的に目標値よりも低く分布しており、平均値と目標値に $2\mu\text{g}/\text{dl}$ の乖離がみられた。その結果、許容範囲から外れてしまう施設が多くあったものと考えられる。

サーベイは外部精度管理として、その時の測定値を確認するものである。サーベイの結果が良い評価であったとしても、それは今後を保証するものではない。本サーベイにおけるチリトロール測定結果から、測定値が認証許容範囲内であった施設の多くは、本サーベイ試料においても良好な評価を得ている。また、県内の基幹病院が自施設の測定値を公開することで、チリトロール使用施設の精度管理をサポートする体制が構築されている。これらのことから、チリトロールを用い継続して内部精度管理を行うことは有用であると考えられる。

（一般社団法人 千葉県臨床検査技師会 平成 23 年度(第 17 回)精度管理調査報告書より)



平成 23 年度千葉県臨床検査技師会 精度管理報告書
 図 10 各項目におけるチリトロール測定状況別 A 評価割合 (%)より抜粋